

吉備の環境アクション
県は児島湖流域環境保全推進期間（9～11月）に合わせ、岡山、玉野市、早島町など8カ所で行われた「清掃大作戦」の実績をまとめた。地域住民ら延べ

回収例年並み9.6トン

児島湖流域清掃大作戦
県まとめ プラごみ目立つ



児島湾締切堤防付近のごみを拾う「清掃大作戦」の参加者＝6日、岡山市

2059人が参加し、回収したごみは例年並みの約9・6トに上った。
9月4日、10月30日、11月6日の3日間、児島湾締切堤防付近（岡山市）や倉敷美観地区の倉敷川周辺（倉敷市）などで地元企業の従業員や住民らを取り組んだ。ごみの内訳は可燃ごみが約8・4ト、不燃ごみが約1・2ト。ペットボトルやビニール袋といったプラスチックごみが目立ったと
いう。瀬戸内海のごみの7割近くは陸域部から排出され、河川や用水路を経て海に流出している。児島湖のごみも多くもこうしたルートで流れ込んでいるとみられ、県環境管理課は「川ごみを減らすことが児島湖をきれいにするることにつながる。陸域からごみを出さない機運の醸成に努めたい」としている。

8日付山陽新聞、全県版

児島湖流域環境保全対策推進協議会が1987年から実施。昨年は倉敷川周辺を除く7カ所で行われ、延べ1428人が約9・8トを回収した。
（岡亮佑）

Q1

回収したごみの分量はどれくらいでしたか。見出しと第1段落を読み答えましょう。

Q2

回収したごみの中では、どのような種類のごみが目立ちましたか。見出しと第2段落を読み答えましょう。

Q3

瀬戸内海のごみの7割近くは、陸から川を経て海に流出しています。こうしたごみを減らしていくアイデアを考えましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。